



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和4年度8・9月号
令和4年8月29日(月)
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

あいさつの力

校長 三杉 紀文

今年の夏は、東京で猛暑日数の最多記録を更新するなど、文字通り猛烈な暑さでした。間もなく9月を迎えるところですが、まだまだ残暑がしばらくは続きそうです。頑固な夏にもう少し付き合うつもりで、引き続き暑さ対策にも気を配っていきましょう。

さて、夏季休業日が終わり、2学期がスタートしました。私は課業日の朝のルーティーンとして、校門付近で登校してくる生徒たちにあいさつをすることにしています。時間にして20分程度ですが、私にとってはありがたい時間です。

気温の高い日は、校門付近に朝から打ち水をしてきている職員がいます。生活委員の生徒と数名の職員が参加して、毎朝、校門付近で元気なあいさつの声を響かせています。今日も1日、頑張るぞという前向きな雰囲気を作ってくれています。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、9月は中止となりましたが、定期的に「地域DE見守り隊」の方々なども多数、あいさつ運動に参加いただいております。参加の皆様には改めて感謝申し上げます。

そうした中でも私が一番ありがたいと感じるのは、登校してくる生徒からの「おはようございます」というあいさつです。ここ数年は、コロナ禍による感染防止対策のために、それ以前と比べると、様々な場面で人とのつながりの機会が確実に減っていると感じています。それに対して、あいさつを交わすという行為は、時間にして数秒のことであっても、その瞬間、相手のことを認めつながろうとする意志の確認が成されているということです。つながりの機会が減っていると感じられる中、あいさつは、やはり人とのつながりは心地よいなと一瞬にして感じさせてくれます。ほっと温かい気持ちになります。わずか数秒で、心地よい気持ち、嬉しい気持ちにさせてくれるということを考えると、あいさつはまるで魔法のようだとも感じています。

私はこの魔力を高めるために、あいさつをする時、次の2点を心掛けています。1つ目は、「明るく」。私は明るくあいさつされた方が嬉しく感じますし、その方が相手の心に届きやすいかなと感じるからです。2つ目は、「先に」。あいさつを交わすと心地よいので、待っているのではなく自分からその機会を作りたいと考えています。あいさつは朝だけのものではありませんが、この2つの心掛けの頭文字をとって、私はあいさつの心得を「あ」「さ」としています。

あいさつを交わすことで心地よい気持ちになるのは、私だけではないはずです。保護者や地域の方々もいつも生徒たちを見守り、生徒たちに声を掛けてくださっています。明るいあいさつは、地域に元気を与え、未来を感じさせてくれます。あいさつの力を信じて、一層その輪を広げていきたいものです。